

「いしのまき水辺の緑のプロムナード計画」

第3回 懇談会資料

平成24年 10月 3日

石 巻 市

第2回懇談会の主な意見

凡 例

- プロムナードルート ①～⑥
- 拠点 B～H

拠点C

- 河川敷の占用に関する規制が平成23年度から緩和され、飲食店やオープンカフェ等を含む広場・イベント等でも利用できるようになった。ぜひ活用してもらいたい。

ルート⑥

- サイクリングロードと人の歩くところとの棲み分けが出来る作り方にして欲しい。堤防の中腹にサイクリングロードを設ければ、良い使い方ができるのではないかと。
- 部分的でも、散策路はチップを利用した足にやさしい舗装してほしい。
- 兩岸堤防を整備することにより、大きな散策路・サイクリングロードとなる。

日和山

- 日和山を水辺に近いビューポイントとして計画に位置づけることはよいと思う。

拠点D

- ここに来れば石巻はこういう町だったと思い出せるサイン・モニュメント・ミュージアム等があり、歴史を語ったり、伝承したり出来る場であつたら良い。
- 石巻を案内するガイドボランティアの集う施設があると良い。

中瀬の橋

- 中瀬の下流の橋が実現すると、左岸の並木にわたってぐるっと回遊できる。

ルート③

- 右岸側から見たときの、対岸の景観が非常に大事。緑地だけではなく昔のように石積みがあつたりすると非常にいいと思う。
- この辺りが並木として整備されると良いロケーションになると思う。植栽は実現すべきである。

ルート⑤

- 北北上運河は突き当たりで止まっているが、周遊性として、どこかでまげて、拠点Bにつなげるようなことも必要ではないか。
- 北北上運河の松が全体の約4割が枯れている。景観性を高める場合には新たな植栽も考える必要がある。

サイン

- 市民参加のサイン整備プロジェクトがもう一度できればと思っている。サインの文書までできていよいよ提示しようという段階で被災した。



ルート①、拠点B

- 祈念公園が中瀬のどちらかで、ルート全体を博物館と見なして、震災や歴史を一緒にした施設があるとよい。
- 祈念公園に、防潮丘や眺望点があれば良い。
- 水面利用は重要であるが、あれだけの船を全部収容できるのか、不足する分はどこで収容するのか対策を考えないと、現状のままではマリナ機能は不足している。
- 川がみえる・海がみえるというのが石巻らしさだと思う。祈念公園は、これだけ広くなるので、みんなで知恵を出し合って考えていきたい。

宿泊機能

- プロムナード計画でも観光は目玉になっている。ただし、泊まる場所がない。観光では宿泊は重要であり観光全体の課題である。

舟運

- 渡し船や各拠点を結ぶ定期船があってもいい。船着き場が拠点になって、人が集まるし、動ける。

※拠点Bは、旧計画の拠点A、B、Eを集約

第2回懇談会の意見の反映

- ・第2回懇談会では、拠点やルートへの位置づけや計画全体の骨格を大きく変更するような意見はなかった。
- ・北北上運河沿いのルート⑤～拠点Bの間を人が移動する動線として、市街地を環で囲むネットワークとして結びつけることとした。



「いしのまき水と緑のプロムナード計画見直し(案)」では、プロムナードの利便性、快適性の向上、更には市民に愛される石巻のまちづくり、集いとにぎわいを呼ぶための利活用方策の一環としてサイン計画を立案する。

サイン計画の目的

①目的地までの円滑な誘導

地元住民や観光客の人たちが、拠点等への目的地まで円滑に移動できるように誘導する。

②石巻について学ぶ

地元住民や観光客の人たちに、サインを通じて石巻の歴史、文化、産業等について学んでもらい、市民に愛される石巻のまちづくりを目指す。

③楽しさや賑わいを演出し、 来訪者の増大と石巻の地域活性化を図る

利便性を向上させることだけでなく、サインのデザインにイラストやアニメを活用する等、楽しさや賑わいを演出し、来訪者の増大をめざし石巻の地域活性化を図る。

【サインの留意点】

1. 誰もが見やすく、わかりやすいサインとする。

子どもからお年寄りまで誰もが見やすく(視認性が高く)、分かりやすいサインとする。また、誘導や避難に用いるサインはユニバーサルの観点から日本語、英語及び絵文字等による表示を基本とし、必要に応じて音声案内等を活用する。

2. 周辺景観との調和、融合を図るとともに、石巻らしさを演出する。

周辺の町並みや自然環境等の景観との調和を図り、情報を的確に伝えるとともに、歴史や文化といった石巻らしさを演出する素材、デザインとする。

3. サインの分類に応じて、サインのデザインを統一させる。

サインの分類上同じものは、統一したデザインとし、複数のサインが連携することで情報の伝達効果を高める。

4. 市民のみんなで考える。

市民参加で「石巻のことをより分かりやすく解説する」サイン作成や設置を検討する。なお、将来に向けて、更新や充実を図っていくよう、継続していく。

サインの分類

サインは、案内、誘導、歴史や文化等の説明、利活用のサインと避難や津波啓発の防災サインを対象とする。

	設置の目的	サインの事例
利活用サイン	①案内サイン <ul style="list-style-type: none"> 全体案内(ルート・拠点の説明、トイレ、休憩施設等の説明) 拠点内の主要施設を案内 現在地の表示 	
	②誘導サイン <ul style="list-style-type: none"> 観光客をまちの中心部からプロムナードのルートや拠点まで誘導 注目スポット等へ誘導 	
	③説明サイン <ul style="list-style-type: none"> 歴史的な地域資源を解説する プロムナードのルートや拠点周辺の歴史、文化、産業等、更に史跡等の地域資源を解説する 	
	④その他 <ul style="list-style-type: none"> 海や川の景観を楽しめる場所を示す 河口からの現在の位置までの距離を示す お勧めの散策コースや目的地までの所要時間等を知らせる 	
防災サイン	⑤避難サイン <ul style="list-style-type: none"> 津波避難場所や避難経路などを表示 	
	⑥津波啓発サイン <ul style="list-style-type: none"> 津波の知識を学習し、危険性を表示 過去に来襲した津波の高さを表示 	

サイン計画

サインの主な配置(案)

- ①案内サイン:プロムナード全体を記した案内サインは、来訪者の交通の拠点となる石巻駅や、各拠点の要所に設置する。
- ②誘導サイン:プロムナードやその周辺道路の分岐点となる箇所に設置する。
- ③説明サイン:石巻の歴史や文化等を伝える各施設に対し説明サインを設置する。

ルート・拠点	番号	説明サインの例
拠点B	①	北上川河口と海難救助の歴史
	②	港の歴史
ルート②	③	北上川河口と海難救助の歴史
	④	門脇町の歴史
ルート③	⑤	一皇子宮
	⑥	慈恩院
拠点D	⑦	箱崎八幡神社
	⑧	北上川や中瀬での造船の歴史
拠点C	⑨	大嶋(住吉)神社、住吉公園
	⑩	船着場の歴史
ルート④	⑪	立町・羽黒町等の歴史
	⑫	住吉町、千石町の史跡
ルート⑥	⑬	昔の水遊風景
	⑭	石巻専修大学の桜

※説明サインは、将来にわたって更新・充実を継続

【凡例】

- プロムナードルート ①~⑥
- 拠点 B~H
- 案内サイン
- 誘導サイン
- 説明サイン ①~⑭



① 雲雀野海岸

※拠点B:旧計画の拠点A、B、Eを統合